

社会福祉法人スマイルワーク

令和3年度事業報告書

I 法人関係

新型コロナウイルス感染症防止の観点から本年度当初の事業計画を変更しつつ、利用者、保護者の協力の下、関係機関との連携を深めながら各種事業を推進した。

1. 役員会等の開催

(1) 役員会

会議名	開催月日	場所	出席者数	
			理事	監事
第1回理事会	令和3年 5月17日	はまなす館 第1会議室	6	1
第2回理事会	令和3年 6月2日	はまなす館 第3会議室	5	2
第3回理事会	令和3年 9月24日	はまなす館 第1会議室	5	2
第4回理事会	令和3年 12月8日	はまなす館 第1会議室	6	2
第5回理事会	令和4年 3月10日	はまなす館 第3会議室	6	2

(2) 評議員会

会議名	開催月日	場所	出席者数		
			評議員	監事	理事
第1回評議員会	令和3年 6月1日	はまなす館 第3会議室	6	1	2
委嘱状交付式	令和3年 6月2日	はまなす館 第3会議室	6		2
第2回評議員会	令和4年 3月8日	はまなす館 第1会議室	5	1	2
第3回評議員会	令和4年 3月24日	はまなす館 第3会議室	4	2	2

(3) 苦情解決第三者委員会

会議名	開催月日	場 所	出席者数	
			委員	理事
第1回苦情解決 第三者委員会	令和3年 9月13日	スマイルセン ター会議室	4	2
第2回苦情解決 第三者委員会	令和3年 9月29日	スマイルセン ター会議室	4	2
第3回苦情解決 第三者委員会	令和4年 2月25日	スマイルセン ター会議室	4	2

(4) 評議員選任解任委員会

会議名	開催月日	場 所	出席者数	
			委員	理事
第1回評議員選 任解任委員会	令和3年 4月22日	スマイルセン ター会議室	4	2

(5) 監事会

会議名	開催月日	場 所	出席者数	
			監事	理事
監事会	令和3年 5月7日	スマイルセン ター会議室	2	1

2. 人権擁護・虐待防止に向けた取組

- (1) 年度末に虐待防止委員会、身体拘束検討委員会を新たに設置し次年度に向けて実効性のある取組を確認した。
- (2) 職員会議の場で、職員行動指針の内容を提示し、職員の規範意識の高揚と支援上の留意事項について毎回確認し、不祥事防止に役立てている。
- (3) 人権擁護・虐待防止に関する事業所内掲示
職員の目につきやすい場所に人権擁護、虐待等の防止に向けた掲示をし、利用者本位の支援と自己の行動の振り返りに活かすようにしている。
- (4) 虐待防止チェックリストの活用
毎月、個々の職員の対応を主観、客観の両面から自己チェックしたものを係が集約し、改善に向けて職員会議で問題の分析と今後の対策について協議した。また、運転手にもチェックしてもらうようにした。結果については、苦情解決第三者委員会へ報告し、アドバイスを受けている。
虐待防止に関する県の調査について、全職員を対象として実施した結果、

内部の自己チェックとほぼ同様の結果を得た。

- (5) 苦情解決第三者委員会の助言を得て面談による虐待の把握や要望の聴取を実施した。年6回の計画で進めている。
- (6) スマイルボックスの活用
毎月、担当者がスマイルボックスの活用について説明し、利用者自身の人権や虐待に関する意識の向上を図っている。
- (7) 外部講師招聘による施設内研修
職員の不祥事防止の一環として11月30日に弁護士を招聘して研修を実施した。

3. 事業等の評価の実施

(1) 内部評価

令和4年度の運営改善に向けて、自己点検チェックリストの活用や作業支援、係業務の反省等を行い成果や課題、改善事項を洗い出し事業計画等に反映させるようにした。

(2) 施設利用満足度調査

利用者や保護者によるアンケートを通し、事業やサービス提供について評価する機会を設けた。結果について、苦情解決第三者委員会に提出するとともに、保護者の意見に対する回答を含めて各家庭にお知らせした。

① 実施期間 令和4年1月18日(火)～令和4年1月25日(火)

② 評価内容13項目

- Q1 職員のあいさつや態度
- Q2 職員の利用者に対する接し方
- Q3 広報誌や文書等の見やすさ、わかりやすさ
- Q4 個別支援計画書への本人・家族の意向の反映
- Q5 コロナウイルスやインフルエンザ等感染症予防への対応
- Q6 職員は病気やけが等への適切な対応
- Q7 施設の安全・事故防止対策
- Q8 苦情や要望への対応
- Q9 利用者や家族の個人情報に関する守秘義務の遵守
- Q10 現状の作業内容への満足度
- Q11 作業に見合った工賃
- Q12 行事の種類や内容への満足度
- Q13 行事への参加しやすい配慮

③ 評価基準 4段階

4. 広報誌の発行

保護者や関係者に法人や事業所の情報を積極的に発信し、現状の理解と情報の共有化を図り、連携と協力体制の構築に努めた。

(1) 広報誌

- 発刊日 第7号 1月
- 発行部数 各300部
- 配布先 保護者、法人役員、評議員、各種委員会委員、協力企業、行政機関等関係者

5. 就労支援関係の新規事業の開拓

市公共施設の清掃業務の契約を更新し令和4年度4月から、相馬市郷土蔵の清掃業務を引き続き実施する。また、歴収蔵館については、修復作業終了後実施する予定。

6. 福島県沖地震による被害状況

- (1) 発生日時 令和4年3月16日(水) 23時36分
最大震度6強

(2) 対応

- ① スマイルセンター及びフレンズとも17日(木)、18日(金)の両日休園措置を取った。
- ② 利用者の安否確認
17日(木)両事業所利用者全員の無事を電話で確認した。避難所に避難した利用者はいない。
- ③ 断水前にポリタンクに水道水を確保した。
- ④ 送迎コースの点検を行い安全を確認した。

(3) 被害状況

- ① 利用者
数名について家屋の損傷があったが、人的な被害はなかった。避難所への避難者は無し。
- ② スマイルセンターの被害
 - コカ・コーラのお茶サーバーの落下、損傷
 - ロッカーの転倒、傷

- スチール棚の転倒、破損
- 消火器の破損
- 建物周辺の陥没
- 南テラス、玄関先を中心に周辺の陥没、コンクリートの破損
- ③ フレンズ被害
 - 内部壁面の亀裂
 - ヤードのひび割れ
 - 床のひび割れ
 - 屋根部のアンカー落下
 - 玄関左ドアのガラスのひび割れ

Ⅱ 就労支援事業所スマイルセンター・フレンズ関係

1. 就労支援の状況

藍染に続きコロタン栽培を新たに取り入れ利用者の年齢、適正、本人の希望等を考慮した作業班を再編し支援を進めてきた。作業工程の細分化、治具の開発、本人の意志決定を重視した関わり等、障がいの特性に応じた支援の充実を図りながら一人ひとりが仕事へのやりがいを感じながら作業意欲や知識、技能の向上を図るよう努めた。

2. 業務種類及び内容

はまなす館清掃、郷土蔵清掃、部品点検（福島ニチアス）、海苔のし（サンエイ海苔）、ダンボール組立（東部段ボール）、ボールペン組立（佐藤ボールペン）、エアーキャップカット（福島ニチアス）の各作業、自主作業として廃品回収、藍染、コロタン栽培を実施した。

本年度は、新たに相馬市郷土倉の清掃業務、ビニールハウスを活用したコロタン（ネットメロン）栽培を導入し、作業種の拡大と工賃向上のための収益の増加に努めた。

2年目となった藍染めについては、染色技術の向上を図りながら製品開発に力を入れた。販路は県授産振興会の窓口を中心に進め、東京「まごころフェア日本橋ふくしま会館」、会津「道の駅ばんだい」、アンテナシップ「福祉の店いわき」、相馬市自立支援協議会就労部会合同販売会（市役所）、アンテナショップ「福祉の店いわき」（ショッピングセンター鹿島）、東京上野松坂屋委託販売会、「まごころフェア日本橋ふくしま会館」での販売会に参加し成果を上げた。

また、毎月の作業会議で、利用者の取り組み状況や発注・納品・収益の現状と課題、今後の見通し等について確認及び協議を行い、効果的な支援と収益の確保、工賃向上を目指した。年度末には、年間を通した取組を振り返り改善事項について協議した。

令和3年度に実施した作業内容は以下の通りである。

業務種類	内容
1. 受託・請負作業	・相馬市総合福祉センターはまなす館清掃 ・相馬市郷土蔵清掃 ・海苔のし加工
2. 製造・加工作業	・段ボール組み立て等 ・ボールペン、シャープペンの組み立て ・その他（正月飾りヘッダー付け、カレンダーまるめ）
3. 廃品回収作業	・段ボール、空き缶等の回収・仕分け
4. 企業内作業	・福島ニチアスピンゲージリング検査 ・段ボール仕切詰め、組み立て等
5. 藍染作業	・藍染、製品の開発、販売
6. コロタン栽培	・栽培、販売

(3) 企業ごと事業収入の実績

区 分	収 入 金 額 (円)
1. 受託・請負作業	4,227,190
(1) 相馬市総合福祉センター はまなす館清掃	3,722,400
(2) サンエイ海苔株式会社	400,504
(3) 相馬市郷土蔵清掃	104,286
2. 製造・加工作業	1,487,555
(1) 有限会社東部ダンボール工業	802,028
(2) ボールペンサトー	488,850
(3) 福島ニチアス	164,585
(4) 米本商店・	32,092
3. 自主作業	2,823,942
(1) 廃品回収作業	2,225,952
(2) 染物	500,990
(3) コロタン栽培	97,000
4. 企業内作業	775,647
(1) 福島ニチアス	775,647
合 計	9,314,334

(4) 令和元年度から令和3年度実績 単位：円

年度	元年度	2年度	3年度
合計	9,104,469	8,500,930	9,314,334

(5) 工賃向上について

本年度の工賃向上計画作成を県に提出すると共に、保護者に対しては、工賃支給方針、工賃目標を提示し工賃向上に向けて取組を進めた。

(6) 工賃支払実績（月額）

1人当たり平均 14,932円（令和3年度目標金額13,000円）

3. 生活及び作業支援について

自立的な生活態度や習慣を育成するため、年2回の個別支援計画の作成を行い、計画に基づいて支援を行った。

(1) 個別支援計画の作成・見直し

ひとり一人の実態に応じた個別支援計画の作成と実施、評価、改善について、職員会議や個別支援計画作成会議において協議してきた。

① モニタリングの実施

目標の達成状況の評価、目標に対する充足度、達成されない場合の原因の分析を行い、今後の支援内容を検討した。また、本人へ今までの支援経過について説明をするとともに、今後の目標について話し合った。

② 個別面談の実施

本人と家族が同席のうえ、現在までの支援内容、経過を説明し本人、家族から要望などを聞き取り計画作成に生かした。

③ 個別支援計画会議の開催

モニタリング及び個別面談の結果を踏まえ後期の個人の目標・支援等について協議・決定した。

(2) 相談支援

利用者との個別面談を重視し、希望や悩みを適切に受け止め、迅速な対応に努めた。

(3) 作業支援

ひとり一人の作業への意欲を高め、達成感を味わわせるため、適切な目標設定、支援の具体化、利用者自身による自己評価、補助具等の作製等に力を入れた。できる作業が増え作業意欲が向上した利用者が多くなった。

(4) 日常生活の基本的行動の定着への支援

言葉遣い、挨拶、手洗い、服薬、対人関係等で課題を抱えている利用者に対して、毎週の反省会時等を活用し担当職員を中心に継続した支援に努めた。

4. 健康・衛生管理について

(1) 感染症予防

作業終了後や食事前の手洗い、うがいの呼びかけを日常的に行っている。利用者が使用するコップ類の洗浄消毒、ドアノブやテーブル等の消毒等継続して実施した。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、送迎車両利用時の検温の確認、作業時、食事時等の向かい合わない配席、パーテーションの利用、送迎車両の消毒等を行っている。

国や県の通知等を踏まえて新型コロナウイルス感染症予防対策を追加・修正をしながら職員会議での確認と徹底、文書による保護者への協力依頼を行ってきた。

(2) コロナワクチン集団接種

5月12日、6月8日、1月13日にスマイルセンターで実施した。

(3) 健康診断

5月6日から6月3日にかけて早川医院において健康診断を実施し、自己の健康管理についての支援を行った。

(4) 予防接種

11月に早川医院においてインフルエンザの予防接種を実施した。

(5) 服薬で支援を要する利用者については、薬の管理、服薬時の支援を行った。

5. 事故防止について

毎月、施設全体の設備等の安全点検及び防災教室、定期の防災・避難訓練を行い利用者の安全確保に務めた。

- (1) 地震及び火災、水害等を想定した防災・避難訓練、
- スマイルセンター
6月24日(火)、11月25日(木)に相馬消防署員招聘による訓練を実施
 - フレンズ
7月20日(火)、12月9日(木)に相馬消防署員招聘による訓練を実施
 - スマイルセンター・フレンズ合同水害訓練
9月27日(月)に水害を想定した避難訓練を実施
- (2) 毎月の防災教室
安全への意識向上を図り危険回避行動がとれるようにすることを目的に毎月初めに実施した。

月	スマイルセンター		フレンズ	
	内容	担当	内容	担当
4月	施設での過ごし方 ・作業や生活上の注意事項、衛生・健康管理項等	吉田恵	施設での過ごし方 作業や生活上の注意事項、衛生 ・健康管理項等	渡辺
5月	新型コロナウイルス感染症予防対策 ・3密の防止 ・手指消毒の徹底	太田	新型コロナウイルス感染症予防対策 ・感染の仕方 ・マスクの着用、正しい手洗いの仕方	齋藤明
7月	交通ルール ・止まる、見る、待つ約束 ・クイズを通じた交通ルール理解	齋藤裕	交通ルール ・歩行時や自転車の安全な利用・信号機の見方	飯土井渡辺
8月	熱中症を防ぐ ・水分補給の重要性 ・外出時の注意 ・熱中症アラート	吉田恵	夏の過ごし方 ・水分補給の重要性 ・外出時の注意	渡辺
11月			寒さ・インフルエンザ対策	渡辺

			・防寒具の身に着 け 方、感染を防ぐた めの注意点	
1 2 月	冬感染症を防ぐ ・寒さ、インフルエ ンザ対策	太田		
1 月	雪道の安全 ・積雪時や氷結時の 歩行の仕方	齋藤裕	雪道の安全 ・積雪時や氷結時 の歩行の仕方	飯土井
2 月	クイズで防災を学ぼう ～地震について知ろう ・身の守り方、避難方法	西村	地震から身を守る ・身の守り方、避 難時の注意点	齋藤明
3 月	今年度を振り返って ・作業、生活の反省	吉田恵里子	今年度を振り返っ て ・作業、生活の反 省	渡辺

6. 行 事

本年度もコロナウイルス感染症予防のため、計画の縮小、代替え行事等
を検討しながら利用者の皆さんの事業所での生活に潤いと変化、利用者間
及び職員との交流を図るため、以下の行事を実施した。

(1) 夏祭り

① 目的

地域の祭り等が中止される中、施設での行事を通して季節を感じ、祭
りの楽しさを味わってもらおう。また、利用者同士の交流を深める。

② 日時

令和3年8月3日(火) 12:45～15:00

③ 場所

スマイルセンター及びフレンズ

④ 内容

ア ゲーム

イ 飲食物の提供

⑤ 成果・反省

ア 成果

- ・久しぶりの行事であったが、節度をもって活動していた。
- ・利用者自ら考え行動し、模擬店やゲームを楽しんでいた。

- ・飲食物の後片付けを進んで行うことができた。
- イ 課題等
 - ・興味のある DVD などを上映する(今回はオリンピック放送があった為、テレビの鑑賞を行った)
 - ・食べ物が冷めてしまったので加熱調理後、保温が出来るような容器に保管できるとよい。

(2) クリスマス会

新型コロナウイルス感染症対策で外部施設を利用せず、それぞれの事業所で実施した。

- ① 期 日
令和3年12月21日(火) 12時20分～15時
- ② 場 所 スマイルセンター及びフレンズ
- ③ 内 容
 - ア 食事会
 - イ クリスマスライブ
 - ウ プレゼント贈呈
 - エ クリスマスカード贈呈
 - オ 記念撮影
- ④ 成果・反省

昨年引き続き施設内での活動であったが、クリスマスライブは大変盛り上がり楽しんでもらった。食事は、衛生面も考慮して一人前ずつ準備した。料理やプレゼントとも利用者からの評判がよかった。

(3) 節分にちなんだ食事会

新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら季節の行事を楽しめるようにした。

- ① 日 時
令和4年2月3日(木) 12時から15時
- ② 場 所 スマイルセンター及びフレンズ
- ④ 内 容
 - ア 食事(恵方巻・豚汁)
- ⑤ 成果・反省

ア 食事がおいしかったという感想が大多数であった。
イ 料理は一人ずつ用意し感染予防に努めた。
ウ 事業所ごとの行事であったが、利用者の皆さんに楽しんでもらった行事となった。

(4) スマイル会

- ① 目的

誕生月のお祝いをとおして、利用者同士の親交を深め合い、互いに思いやり敬う心をもち喜びを感じてもらう。

② 内容

誕生月の利用者に、帰りの会で行事担当職員から誕生祝カードを全員に贈った。

7. 職員の資質向上

新型コロナウイルス感染症は依然として収束していないが、各種研修会や会議がインターネット配信も含め開催されるものもある。可能な限り参加してもらい職員の資質向上を図るよう努めた。

(1) 県内外における各種研修会等への参加状況

開催月日	会議名	場所	参加者
4月20日	相馬地方相談支援従事者・サービス提供事業者合同研修会	鹿島交流センター	齋藤裕保
6月9日	市自立支援協議会 就労支援部会	はまなす館	齋藤裕保
7月14日	市自立支援協議会 就労支援部会	はまなす館	齋藤裕保
8月31日	安全運転管理者等講習会	鹿島農村環境改善センター	齋藤裕保
10月10日	市自立支援協議会 就労部会	はまなす館	齋藤裕保
10月13日	市自立支援協議会 就労支援部会	はまなす館	齋藤裕保
10月19日	令和3年度 障がい者福祉施設職員研修 ～障害とは何かを改めて考えることから始めよう～	ビックバレット福島	齋藤明威
11月10日	市自立支援協議会 就労支援部会	はまなす館	齋藤裕保

11月24日	障害者差別解消法～求められる合理的配慮とは～	鹿島区 さくらホール	吉田恵里子 飯土井真由美
11月26日	令和3年度苦情受付担当者研修会	県総合社会福祉センター	齋藤裕保
1月6日	令和3年度福祉職員キャリアパス対応生涯学習課程チームリーダー研修	県総合福祉センター	齋藤裕保
1月12日	市自立支援協議会 就労部会	はまなす館	齋藤裕保
1月31日	虐待防止研修会	ズーム	吉田雄二
2月15日	地域の人々の健康な生活を支える室や会資源を知る実習 実施っ雄指導者会議	ズーム	吉田雄二 齋藤裕保
2月18日	卒業後の就労継続B型及び生活介護事業所利用に係る移行支援会議並びに評価会議	県立相馬支援学校	吉田雄二
2月18日	サービス管理責任者フォローアップ研修	ズーム	齋藤裕保

(2) 外部講師招聘による施設内研修

① 講師招聘による研修会

ア 日時 令和3年11月30日

イ 内容等 人権、権利擁護、虐待についての

ウ 講師 福島県人権擁護委員連合会

相馬人権擁護委員協議会 人権擁護委員 西山 健司 様

② 伝達講習

11月 障がい者福祉施設職員研修 齋藤明威

～障害とは何かを改めて考えることから始めよう～

11月 障害者差別解消法 吉田恵里子・齋藤裕保

～求められる合理的配慮とは～

8. 地域交流

(1) ボランティア受け入れ (延べ人数)

- ① 生け花 31名 (実数1名)
- ② 補導委託 11名 (実数9人)

9. 参観見学及び研修等受け入れ

(1) 参観見学

- 一般 2名
- 教員 相馬支援学校教諭 2名
- 工房もくもく、ミッキーズハウス他 5名
- 相馬支援学校保護者フレンズ見学 保護者 9名 教諭 3名

(2) 研修受け入れ

- ① 学校教員研修 (8月) 相馬市小中学校初任者研修 教員12名
- ② 裁判所職員研修 (9月) 5名

10. 実習生の受け入れ

相馬支援学校高等部産業現場等における実習

- (1) 前期実習2名 2週間 6月14日～6月24日
 - スマイルセンター 高等部3年1名
 - フレンズ 高等部2年1名
- (2) 後期実習3名 2週間 11月8日～11月19日
 - スマイルセンター 高等部3年1名 高等部2年1名
 - フレンズ 高等部1年1名)
 2週間

11. 保護者との連携

- (1) 保護者役員会との懇談 12月

保護者の要望や運営等に関する意見を聞く懇談会を実施した。

- (2) 役員会等への参加

役員会には理事長、施設長、担当者が毎回出席し、保護者会の活動へのアドバイスや要望の聴取を行うなど、協力体制を強化した。

月 日	内 容 等
5月10日(月)	第1回保護者会役員会 保護者6名 職員2名
6月22日(火)	第2回保護者会役員会 保護者7名 職員1名
8月24日(火)	第3回保護者会役員会 保護者7名 職員1名
9月22日(水)	奉仕作業 保護者21名参加

		職員 11 名・利用者 36 名	
10月7日(木)	臨時保護者会役員会	保護者 6 名	職員等 3 名
3月30日(水)	臨時保護者役員会	保護者 5 名	職員 1 名